

第4回国際競争力の高いスノーリゾート形成促進に向けた検討委員会

議事概要

日時: 2025/12/16 (火) 15:00 - 17:00

有識者: 原田宗彦委員 (座長)、河野博明委員、小野塚彩那委員

山田雄一委員、山田桂一郎委員

オブザーバー: 国土交通省鉄道局施設課長、環境省自然環境局国立公園課長

林野庁森林整備部森林利用課山村振興・緑化推進室長、スポーツ庁参事官

事務局: 観光庁観光地域振興課

●議事概要

●資料1「1～2はじめにとスノーリゾート地域の現状と課題」

委員:

・温暖化について、営業期間が短くなっていることに対して、降雪機を入れることがこれだけ見ると悪になっている感じがあるので、ポジティブな部分として解決策みたいなものを何か明記したらいいと思う。

委員:

・スノーリゾートの現状・課題について、並びはこれでいいのか。重要度が高いものから並べていただいた方がいいのでは。

・自分たちで対応できるような問題と、温暖化みたいになかなか対応しにくい問題と分けてみては。

委員:

・オーバーツーリズムの発生については、白馬村でも条例化をして、罰則規定を設けている。

・野沢温泉村では、ゴミのポイ捨て問題が大きな課題になっている。

・住民が安心してというところがオーバーツーリズムをなくす上でポイントだと思う。その辺も含めて強調していただければと思う。

委員:

・スノーリゾートの現状・課題について、淡々と並列に並んでいるので、優先順位が必要だなと思う。

・私の専門が、マネジメント系なので、やはり人の問題が、これから重要で地域一体の経営視点の不足が上位ではないか。人的資源が不足していると非常に感じる。

・どうやったら解消できるのかという、具体的な策まで踏み込んでいただいた方がいいのかと思う。

委員:

・まとめていることに特に違和感はないが、スノーリゾートに期待する役割のところ、ビーチリゾート等で置き換えができる印象がある。

・これだけ雪が降るエリアで都市から交通の利便性も高いという点が、日本のスノーリゾートの強みだと思うので、そのような表現が入ってくるとよい。

委員：

- ・今後の方向性は、本来はマウンテンリゾート、通年型のリゾートを形成するが頭にきて、それに伴ってマネジメントの話とマーケティングの話があるのがよいと思う。
- ・本来、マネジメントがあつてのマーケティングである。しっかりとマネジメントとマーケティングで分けて提示しておいた方がわかりやすいし、プライオリティが大事。

委員：

- ・現状をいくつかにまとめていただいて、それに対する課題をいくつかにまとめていただくと、若干整理がつくのかなという感じがする。
- ・例えば、温暖化による雪不足と二次交通の受入関係整備が同じように並んでいる感じ。
- ・二次交通はマネジメントで、温暖化はもう完全に自然環境に依存した問題になるので、別課題。

委員：

- ・温暖化と二次交通の問題は、人がやらないといけなところなので、並列にするのはいかがか。

委員：

- ・カテゴリーごとに分かれていた方が、関係者以外の方たちが見たときに、わかりやすいと思う。

●資料1「3 目指すべき方向性」

委員：

- ・スノーリゾートに対して、グリーンシーズンも継続して営業ができるようにというのは理解できるが、「持続可能」というワードに当てはまるのか。

委員：

- ・日本の良きものをみなさん求めて日本に来られている。
- ・ターゲットに合わせたものを作り上げるというよりは、日本にあるものを楽しんでいただくのが本来の観光のあるべき姿ではないか。
- ・「ターゲットに満足してもらえるように、地域によって異なる魅力づくり」の表現は、日本の良きものを潰して、そのターゲットに合わせた取り組みをしましょうという印象を持ってしまった。
- ・「日本の良き文化を体験してもらおう」そのような表現が変わったらいいなと思う。

委員：

- ・人材不足はあらゆるところで、観光リゾート地で起きているので、「健全な成長をする」という表現がよいのではないか。
- ・最近、リゾート経営とDMOが目指している地域経営の間にもギャップが出つつあるので、そこは非常に気になる。

委員：

- ・「住んでよし」「訪れてよし」は、非常に気に入っている。
- ・「欧米豪やアジア諸国等のターゲット、それぞれに満足してもらえる魅力づくり」の部分については、へりくだりすぎかと思う。

・日本の伝統文化を残しつつ、こういう形でみんなに満足してもらえるようなものというような、表現にした方がよいのでは。

委員：

・ターゲットをどこに設定するかで、対応しなきゃいけないことはどんどん増えていくので、目指すべき方向性のところで言うと、そういうのが伝わるように書いていただきたい。

・マーケティング的な要素がちょっと強すぎると思う。

・地域がどういう地域を作りたいと思っているのか、ということから、展開するスノーリゾートというのをトーンとしてもっと強く言っていただきたい。

委員：

・今ある日本の伝統的な観光資源をターゲットごとに変えるのではなく、磨き上げて、選んでいただくということが大事。

委員：

・「国際競争力の高い長期滞在型リゾート地」の下に、「長期滞在型リゾートづくり」になっているので、多様なとか、ユニバーサルな受け入れ環境が必要という表現にしてもよいのではないか。

●資料1「4 今後の取り組みの方向性」、「全体を通して」

委員：

・安全安心の確保の部分は、受け入れ側の安全の確保と、利用者の安全を自己責任という中で管理をしていただく、という両方の面があるので、利用者目線の記載も必要。

委員：

・バックカントリーは違反ではないと、記載はしていただいた方がよい。

・スキーヤーやスノーボードという表現は避けたほうがよい。スノースポーツを楽しむ方のような括りがよいのでは。

委員：

・主体が混在しているのが気になる。地域マネジメントとマウンテンリゾートの形成は、地域単位でやるのでDMO等が主体で、その下に受入環境整備、DXと、二次交通が入ってくるのではないか。

・地域レベルで取り組むことが先にあって、その中でスキー事業者がどういうふうにするのかという、流れがよいのではないか。

委員：

・地域住民向けリフト券の導入は、差別じゃないかみたいな地域もあるので、どう捉えられているのか。

事務局：

・二重価格という言い方ではなく、割引と記載して、差別ではなく区別としている。

委員：

- ・現場では、スキー場で働いている外国人と地元住民の間でゴミ問題等軋轢ができています。

委員：

- ・地域の条例化をうまく機能していかないと、解決できない問題が多くある。

委員：

・「マネジメント人材を含めた人材育成や外部からの専門家派遣等を実施していくこと」という文章のところに外国人労働者の話、ビザの話を追記いただいてもよいかと思う。

委員：

・報告書が出たところで、補助事業の方も立て付けが変わると思うが、今までのところと違っているところと言うと、滞在型、簡単に言うと大型のリゾート目指せるようなところが対象になる、ということは多分、明確な差だと思っている。

- ・地域だけでできない、国も含めた形での総合的なパッケージでの支援というものを、ぜひお願いしたい。